物語をつむぐ

ふらっぐ

私は4月からふらっぐへ異動となりました上武と申します。今までは生活介護や地域生活支援を中心に支援を行って参りました。初めての就労系事業所で日々戸惑いながらも、やりがいを感じて支援しております。ここで左の写真をご覧下さい。

どうでしょうか？どこにでもありそうな、ありふれた風景ですよね。この写真は7月に駅前のビアガーデンで行われた、就職者を祝う会の1コマです。今回も2名の方が就職されて、利用者さんと職員でお祝いをいたしました。私も裏方として幹事を務めましたが、正直なところ少々不安でした。

というのも職員間での飲み会はどこにでもある話ですが、利用者さんと飲みに行った経験はなく「はたして大丈夫だろうか？」と思っていました。しかし、実際行ってみると、大丈夫！何の問題もありません。心地よい夜風を感じながらの楽しいひとときでした。

自ら料理を綺麗に取り分けてくれる人（お店で出てくるようなクオリティ）、スーツをビシッと着てどうみても会社帰りのサラリーマンが飲みに来ているとしか思えない人。また、携帯でお気に入りの人とツーショットを撮ろうと頑張る人や、そのツーショットに割り込む人（笑）。また、より支援を必要とされる人も参加されていたことも嬉しかったです。

ここで感じたことは、もしかしたら、思いとは別に支援者として利用者さんの可能性を閉ざしてしまっている場合があるのではないか？ということでした。

実際に私自身も行う前から不安や難しいかもしれないと自分で勝手に思い込んでいました。

ともあれ、遊びも仕事も地域へと向かって行きたいものです。

ある本で読んだのですが「人は物語を必要とする生き物」だそうです。経済が安定している頃の都市型生活は他人に迷惑さえかけなければそれで良かったそうです。それも1つの物語でしょう。でも、これからの先行き不透明な時代は小さなコミュニティーが必要とされるそうです。つまり、お互い様で共に助け合っていかなければ生きていけない時代だそうです。

そしてもう1つ。社会的立場に弱い人に優しい地域はみんなにとっても優しい地域との事です。

と、ここまで書いて皆様もうおわかりですね。これからは福祉が対象としている枠が広がり、お互いが助け合う時代。その事が最も必要とされていることを。

道のりは遠くても新たな物語の始まりを感じませんか？

体力的に大変だけど地域の人々と働く物語

～外班セクション～

種類豊富でおいしいお弁当とクッキーの物語

～からふる～

地域の人々がたくさんの笑顔でご来店下さるパン屋の物語

～ふらっぐ～

さらに、小さくてもあたたかい物語は生まれそうです。（ちなみに私は歌って踊れるジャムおじさんの物語を目指します）

「皆様はどんな物語をつむぎますか？」

生活支援員
勤続4年　上武　克美